

岩手に育てたい「共生の芽」

障がい福祉サービス事業所 と農福連携

「農福連携」は、農業と福祉を連携させる取組です。

障がい福祉サービスを実施している事業所の一部では、これまでにも一般就労のための訓練や、工賃アップのための農業を実施してきました。その内容は、本格的な農業から近所の農家に頼まれた軽作業まで、たいへん幅の広いものでした。

農業分野と福祉分野の 課題のマッチング

農業分野では、就労者の高齢化や就労人口の減少、耕作放棄地の増加などが課題となっています。一方、福祉分野では、障

がい者の就労機会の確保や、工賃アップといった就労推進が課題となっています。

つまり、高齢化と就労者減少が課題の農業分野は担い手を求める状況にあり、就労創出と工賃アップが課題の福祉分野は就労先を求める状況にあります。農業分野と福祉分野のマッチングで、この課題を克服するのが「農福連携」と言えるでしょう。

農業の担い手の確保、障がい者が担い手になるという両分野の課題を同時に解決できる可能性を持っているのです。

岩手県の農福連携

本県では、岩手県社会福祉協議会が6月から農福連携コーディネーターを配置。県南や宮

古・久慈地域においては、連携に向けた研修会や視察会、さらには障がい者による農業体験実習が実施されました。

昨年11月18~19日には、働く障がい者が心をこめてつくった商品の販売会「2017ナイスハートバザールinいわて」(イオンモール盛岡)が開催されるなど、農福連携の機運が高まってきています。

他県では、障がい者のほか、引きこもりやニート、生活困窮者に対しての就労に向けた体験も行われており「多様な人が共生する社会」としての土台づくりが進んでいます。本県にも、農福連携による「共生の芽」が育つことが期待されます。



農福マルシェ in イオン前沢店

「農業」と「福祉」がつながって、岩手を元気に！

●農福マルシェ in イオン前沢店開催

主催：岩手県

協力：イオンリテール株式会社

運営事務局：岩手県社会福祉協議会



「農業」と「福祉」の連携で生まれた「農福マルシェ」が、1月13~14日に奥州市のイオン前沢店で開催されました。地域の農産物や加工品などを広く皆さんに知ってもらい、購入いただくための市場でもあります。

イオン前沢店の正面入口広場に設置された市場には、障がい者就労支援施設7事業所の野菜、パン、スイーツなど45品目が並べられ、どれも障がいのある方や生産者、施設職員らが丹精こめて生産した商品です。マルシェには1,000名を超える住民が訪れ、商品を手に取り見比べながら、事業所の人との会話を楽しんだりして、お目当ての商品を買い求めていました。

岩手県社会福祉協議会では、農福マルシェのほか、共同受注センター事業を通じ、受発注の橋渡しを通して販路の拡大を目指しています。

農福マルシェとは

「農業」と「福祉」の連携による、農作物の展示・即売会。障がいのある生産者などが、丁寧に育てた果物や生鮮野菜、加工品などを販売する。農福マルシェは、他県でも開催されており、全国に広がっている。

